

教育委員会 1 月定例会会議録

日時 令和 7 年 1 月 1 4 日（火） 午後 2 時 0 0 分から午後 3 時 1 1 分まで

場所 市役所 1 1 階北会議室

出席者

（教育委員）

教育長	吉川 真由美	教育長職務代理者	奈良 知彦
委員	畠山 正文	委員	渡辺 照子
委員	北爪 麻衣子		

（事務局）

教育次長	片貝 伸生	指導担当次長	金井 幸光
総務課長	高橋 雅人	教育施設課長	木村 一弥
文化財保護課長	神宮 聡	学務管理課長	後藤 弘史
学校教育課長	田村 裕之	前橋高等学校事務長	藤井 義嗣
前橋高等学校校長	高野 裕史	生涯学習課長	佐藤 由美子
教育支援課長	安藤 尚	図書館長	齋藤 明子

【教育長】

これより前橋市教育委員会 1 月定例会を開会いたします。

【教育長】

直ちに 本日の会議を開きます。

【教育長】

1 2 月定例会の会議録については、既に配付済みであります。記載事項に異議等ありませんか。

(異議なし)

【教育長】

異議のないものと認め、承認いたします。

【教育長】

議事は、議事日程第 1 号のとおり進めます。

日程第一。会期の決定ですが、本会議の会期は、本日一日といたします。

【教育長】

日程第二。会議録署名委員の指名ですが、本日の署名委員に北爪委員と奈良委員を指名いたしますので、よろしく願いいたします。

【教育長】

日程第三。教育長提出の諸報告について、報告いたします。

【教育長】

総括的報告

本日は 1 件ご報告させていただきます。

高校生模擬議会が 1 2 月 1 9 日 (木) に前橋市議会の議場で開催されました。市立前橋高校の高校生模擬議会については本日報告事項にありますので、改めて報告をさせていただきます。

私からは模擬議会が開催された日に議長から提案があったことをお伝えできればと思います。高校生模擬議会の質問形式は、第一質問、そして第二質問として当局側の答弁を聞いてその感想や要望をお話をいただくのですが、どちらも高校生が質問席で執行部に向かってお話をしてもらおうという形式でした。笠原議長から、議会というのは決して執行部に対してものを申すものではない、議会というのは議会の議員のみんなと一緒に自分の考えを述べて、それに対してどう思うかという議論をする場であって、当局に要望する場ではないから、通常の議会も第一質問は登壇して議席に向かって発言をする、それと同じように高校生もまずは高校生の議員であるみんなに対して第一質問を発言した後に第二質問は質問席から当局に向かって発言をするように変更してみたらどうか、と言われました。これは議会の在り方と言いますか、議会というものは本来、議員がそれぞれに議論を戦わせ

ながら一つの方向性を出して行って、そして当局と議員が両輪となって市政を進めていくものなのだという事を改めて感じた次第です。国会を見ても議員の皆さんの方に向かって発言をされていますので、議会とは何かという深いところを考えながら来年の高校生模擬議会に生かしていければと感じました。

前橋市は実業団駅伝があり、華々しく元旦を向かえます。そしてその後、始業式、はたちのつどいと続きます。委員の皆様にもご参加をいただきましたはたちのつどいが本日報告事項に入っていますので、感想などいただけましたら幸いです。

3学期も始まりましたがインフルエンザが統計上過去最多となっております。しかしながら学校の中では非常に落ち着いた始業式を向かえることができました。事件、事故なくスタートができています。私の方は年初からいくつかの会議で今年度の要望をお話させていただきました。

前橋市はめぶくをキーワードに色々なところで新しいものが育っていく街にしたいと伝えていますが、より良い芽がたくさん出るためには、硬い土ではなくてやわらかい土にしていかなければならないということで、私たち教育委員会では学びで社会を耕していきたいという事をお伝えをさせていただきました。こどもたちがしっかりと学校で学ぶ、そして社会の皆さんが社会教育の中でしっかりと学べる場を作っていきたい、少し堅い言葉で言いますと学びを社会の中で実装したいと言いますが、色々な場所に学びの場を埋め込んでいけると良いと考えており、私は教育長として学びで社会を耕す1年にしたいと考えています。社会教育、学校教育共に力を入れていきたいと考えています。

さて、昨日、前橋にとって非常にうれしいニュースが飛び込んできました。私も国立競技場に伺ったのですが、前橋育英高校がサッカー選手権で全国優勝を果たすという大変な成果を出されました。もちろん、勝敗というのがスポーツの優勝決定戦ではあるのですが、私が国立競技場で感じたことはスポーツをする人、観る人、そして支える人がそれぞれいてこそスポーツ振興なのだと感じました。この点について皆さんはどのようにお考えになったのか、それぞれの立場で色々な場面を見ながら、感動するところや相手のチームの気持ちになるようなこともあったかと思っております。お話を伺えたらと思います。特に奈良委員には後ほど感想を聞ければと思っております。よろしく願いいたします。

【学校教育課長】

報告1 前橋市部活動の地域移行のWebページ公開について

お手元の資料と合わせてモニターの方をご覧ください。

前橋市教育委員会では令和5年度より部活動の地域移行に向けた検討委員会を組織し、前橋市の部活動の地域移行に向けて、検討を進めてまいりました。検討委員会は前橋市スポーツ協会や文化協会をはじめ、まちづくり公社などの文化・スポーツ関係団体、PTA連合会や校長会、中体連等の学校関係団体、学識経験者及び教育委員会や文化スポーツ観光部等の総勢25名で編成しております。

地域移行の見通しについては、令和6年度に部活動の地域移行のリーフレットを作成し、生徒や保護者、市民に向けて発信をいたしました。リーフレットには部活動の地域移行の将来像や今後のスケジュールや取組を掲載いたしました。

今回はリーフレットに加え、児童生徒及び保護者に多くの情報提供を行え、地域移行への理解を深めていただくために、新たに前橋市部活動の地域移行のWebページを作成したという報告になります。

モニターをご覧ください。このモニターにあるものがトップページになります。保護者

が自分たちのお子さんがどの地域、クラブに参加できるのかという紹介はここから飛ぶことができます。部活動がない日は前橋市は中学生・多様な学びの日というのを定めていますが、その活動についてはここから飛ぶことができます。

内容についてお話をしていきたいと思います。部活動の地域移行に向けてということで教育長のあいさつからスタートします。

そして内容ですが、1 これまでの学校部活動、がこういう内容になります。

次に2 現状と課題です。こども達のためということで地域移行は成り立っています。現在、少子化のため1つの学校でチームが組めない等の問題が起きています。そこでこども達のニーズに合った活動ができるように地域クラブに移行して、こども達がより自由に活動できるような体制を作ろうということで地域移行を進めているところです。

次に、3 教員・生徒・保護者アンケートの結果概要です。これは昨年度生徒、保護者、教員に向けてアンケートした概要が書いてあります。現在部活動、習い事に取り組んでいる生徒は約9割います。保護者については、もしも地域移行になった場合、参加費用を出せるとすれば月4,000円くらいまで出せそうだという意見が出ています。それから教員のアンケートの結果を言いますと、部活動を指導をした経験のある教員は回答者の約7割となっています。それから部活動が地域移行した場合、地域の指導者として指導を希望する教員は約2割という結果が出ています。

次に、4 国や県の指針は今までの地域移行に対する国や県のガイドラインが載っています。さらに5の前橋市推進計画の策定ですが、前橋市は推進計画を策定して、見通しを持った計画で進もうとしています。現在策定中です。

それから6 学校部活動から地域クラブ活動へということで地域クラブというのがどういうものか、保護者やこども達にわかりやすくなるように説明が載っています。これが昨年度、保護者と生徒に配られたチラシになります。ここには裏面に、休日の部活動について今後の見通しが令和8年度まで書いてあります。そして我々の目標としては令和8年度末までにおおむね地域クラブに移行できればと考えています。

それから7 令和7年度の取組ということで受け皿となる地域クラブ、指導者、活動場所の確保、というような形で我々が活動をしています。先ほど言った学校部活動の休止日の設定は来年度までが載っています。1月下旬を目途に公開しようと考えています。ここには中学生・多様な学びの日とありますが、先ほどの1番上にあった前橋市まちづくり公社が作成しているまえばしスポーツクラブで、地域クラブの説明や指導者の派遣事業、指導者バンクの登録等が見ることができます。さらに中学生・多様な学びの日ということで先ほど設定した日程でどのような事が行われているのか見ることができます。例えば1月25日、26日は中学生スポーツ活動推進事業やフィンランド生まれの対話まえばし対話フェスなどが行われるという事がここで見ることができます。このような形で見ることができるという事でホームページを公開していきます。以上です。

【学校教育課長】

報告2 就学前幼児対象「親と子の日本語指導スタートアッププログラム」の実施について

資料2 ページを御覧ください

1 趣旨をご覧ください。本事業は、以前お知らせした就学児童・生徒対象のプログラムではなく、就学前の幼児を対象とした日本語指導スタートアッププログラムとなっております。外国にルーツを持つ就学前の幼児が小学校等に入学する際、円滑に学校生活を送る

ために実施するものです。

2 対象をご覧ください。対象は前橋市立小学校と特別支援学校の小学部へ入学する外国人幼児等とその保護者です。なお、保育園や幼稚園、こども園等において教育を受けていない幼児を優先することとしております。

3 プログラム内容をご覧ください。プログラム内容は、レクリエーション、ガイダンス、日本の学校生活、簡単な日本語です。(1) レクリエーションは、幼児に対して遊びを通して楽しみながら日本の文化に触れさせます。(2) ガイダンスは、保護者に対して通訳を介しながら日本の文化風習や入学準備について詳しく説明したり、保護者からの質問に応じたりします。(3) 日本の学校生活は、学用品についてその名前や使用方法を説明したり、学校のルールやマナーについて指導したりします。(4) 簡単な日本語は自己紹介や挨拶の仕方、名前の読み方や書き方等について指導します。(3) 日本の学校生活と(4) 簡単な日本語については、保護者にも幼児が学んでいる様子を見ていただきながら一緒に学んでいただきます。

4 募集方法と5 申込方法をご覧ください。募集方法は、各校で行われる新入学説明会において、対象となりうる幼児の保護者に資料4 ページのチラシと資料6 ページの申込用紙を各学校から配布し、本講習について紹介していただきます。そのうえで、参加を希望する保護者は資料6 ページの申込用紙に必要事項を記入し各学校に提出します。提出された学校は、参加希望者を取りまとめたうえで、学校教育課 JSP 担当まで連絡を行います。

6 開催日程は、主に2月と3月にそれぞれ5日間ずつ開催いたします。各月の開催日の初日と最終日には通訳を配置し、保護者からの相談を受け付けます。なお、2月と3月は同じプログラム内容を実施します。2月と3月のどちらかでの受講や、2月と3月で繰り返し受講、または、受講できる曜日を選んでの受講など柔軟に対応いたします。

7 支援場所は、総合教育プラザのセミナールームです。保護者による送迎を原則といたします。

【教育長】

以上の報告について、質疑や感想などをいただけたらと思います。

まず、教育長総括的報告でも触れましたが、前橋育英高校サッカー部の活躍についてですが、奈良教育委員は本日の朝刊でも感想とコメントを寄せておられました。教育的な視点から試合の素晴らしさをお話いただけたらと思います。

【奈良委員】

まだ皆さんに印象が強く残っているかと思うのですが、高校サッカー、高校野球というのはマスコミ等もかなり応援してくれるのであのような大きな舞台が用意されています。年末にもバスケットやバレーボールがあったりして、部活動で日本一を目指すという学校が多いのではないかと思います。

日本一になりたい、勝って終わりたい、ということを目指して指導者も生徒も日々努力するわけですが、教育者としては日本一を目指すのが目的ではなくて、真剣に毎日トレーニングする、自分の夢に向かってチャレンジする、そういう中でそれぞれの人間性を成長させたい、人間的に大きな人物になってもらいたいという、今、教育界でもよく言われている非認知能力という事を身につけさせることが目的で、それができる場がまさに部活動なのではないのかと思います。

相手は何を考えているのか、味方は何を考えているのか、何を自分に求めているのか、

お互いがコミュニケーションを図ったり、努力をしている姿、応援してくれる人への感謝、支えてくれる人への感謝、また、試合に出られなかった部員たちに対して、あいつののためにも、という言葉も出てきます。昨日の試合の苦しくなった場面で、山田先生が、私の話よりも応援団を見ろと選手に伝えていました。俺を支えてくれている、彼らのためにももっと頑張らなくてはという気持ちで戦ったのではないかと思います。双方のチームがそうだったと思います。PKは残酷な決め方だと思っているのですが、それはそれで人生における厳しさも学べたのではないかというような気がしています。

単に部活動の勝った負けたではない、勝った負けたにこだわる中で頑張る姿が皆さんを感動させてくれたのではないかと思います。昨日はカードも出ずに、決められたルールの中で正々堂々と戦って、相手も思いやりながら本当に真剣に戦った姿に感動しました。勝敗だけではなく、それを目指している彼らの真剣な目が本当に今後につながるのではないかと思いますし、つなげて行って欲しいと思っています。彼らの中から、競技のプロとなる人もいるだろうし、指導者となる人もいるでしょう。そういった事を通して自分が得た経験を後輩に伝えて行ってくれる人になってくれれば良いという気持ちで観ていました。本当に育英が勝ってよかったと思います。戦っている高校生の姿から大人も学ぶべきことが多いのではないかと思います。支え合う事や我慢すること、いろんなことを昨日の試合は教えてくれたと感じました。

【教育長】

前橋育英は結果発表の中でフェアプレー賞も受賞されてきました。すごく誇らしく思いました。

私達は前橋育英の応援団として、流通経済大学付属柏高校も関係者が応援に行っていたと思いますが、それだけではない、サッカーの素晴らしさに魅せられた方々が5万数千人となり国立競技場に詰めかけました。PKの前に一瞬完全な静寂があるんです。5万人もいるのにこんなに静かな瞬間がある。その中でそこにいる人達が何を感じていたかという、どちらが勝つか負けるかではなくて、こんな素晴らしいスポーツの一面を見せてくれてありがとう、話はせずにしっかりと目に焼き付けなくては、という気持ちだったのではないかと思います。スポーツの素晴らしさを教育を通して次の世代にも繋いでいきたいと思いました。次の世代をどう育てていくかということで、部活動の地域移行にも繋がっていきますが、部活動の地域移行と日本語指導スタートアッププログラムについてご意見ご質問がありましたらお願いします。

【北爪委員】

中学生のこどもを持つ保護者としては、部活動の地域移行というワードはすごくタイムリーでみんなとても興味を持っています。令和8年度に本格始動した後で、実際自分たちのこどもはどうなってしまうのだろうと不安を持っている保護者の声が多く聞こえています。思い起こせば、約1年前に中学校入学説明会で、学校の持ち物や生活について説明をいただいている中で、特にその時の校長先生をはじめ教頭先生から、部活動についてすごく真剣にお話していただいたのを覚えています。宮城地区なので、こどもがどんどん減ってしまっていて、何年後にはこんな状態になりますという予想グラフをその時初めて見て、説明会に行くと初めて知った保護者も多くいました。そこでやっぱり地域移行という話が出てくると、保護者の間ではどうなってしまうのかという不安の声が非常に多かったです。実は今年度で宮城中はサッカー部も野球部も廃部になってしまっていて、その受け皿をどうし

ようかというのを保護者も不安がっています。私自身を含め保護者の方々は、自分が中学生の時に部活をすごく真剣にやってきた世代で、部活を通して人との関わり方や厳しい先生とどう過ごしていくかなどということ学んできた世代だからこそ、どうするんだろうという不安がある方が多い印象がありました。多分これから中学校入学説明会があると思います。初めて中学生を持つ保護者の方は知らないことがたくさんあると思うので、そういうところも改めてお話いただいたら安心につながるかなと思いました。

【学校教育課長】

こどもたちの部活動ができなくなっている現状があります。ひと昔前であれば野球やサッカーというのは廃部なんて絶対考えられないくらい人気があったのにそういうものからもうなくなっています。合同部活の手段を前橋市では取っていたのですが、合同部活というのは距離が離れすぎていると会って練習することができない。そういったことがあって、どうにか団体競技を可能にする方法はないか試行錯誤のもと、地域移行という形を取ればこどもたちがより自分の好きな活動ができるのではないかとということで、地域移行を進めているところです。

基本は剣道部なのだけれども日曜はバスケの練習ができる、という子も出てきています。今だんだん人数が増えてきているところですが、できるだけこどもたちが悲しむことがないようにしていきたいと思っています。最初はスポーツ、休日を中心にしていきたいと思います。それから次には文化部も活動ができるようにしていきたいと思います。これができるようにするためには、場所と指導者とお金と色々なものが必要になってくるので、たくさん課と連携を取りながら進めていきます。

【奈良委員】

令和8年からは土日が地域での活動となるという理解でよろしいですか。平日はどうなりますか。

【学校教育課長】

今は土日移行を進めています。平日については、平日も活動できるような地域クラブができれば段階的に平日も移行する可能性はあります。ただ、一つの学校の中に、ある部活動は地域クラブでやっていて、ある部活動は学校の先生がやっていて、という複雑な状況ができてしまうので、そういったものも検討材料として、課題をクリアしながら進める形となっています。

【奈良委員】

原則としては今のところは平日は学校内での活動という理解でいいですか。その辺がどうなるのが不安に思っている保護者も多いかと思いますので。今すぐはっきり方針を出してくれというのではなくて、できるだけ保護者の不安が小さくなるような進め方と学校を通した説明を丁寧にしていただけたらいいと思います。

【教育長】

北爪委員さんのような不安を抱えた保護者は少なくないと思いますので、中学校入学説明会だけではなくて、小学生の保護者に対してもしっかりと周知をしていく必要があるかと思っています。それもあってウェブで見ただけの環境も大切かと思っています。学校部活動

が担ってきたものというのは、技術を磨くだけではなくて、お話にあった通り、先生や仲間から学んでいることも多かったかと思うので、それがしっかりと地域クラブに移行できるのか、または学校の中で部活動ではなくてもしっかりとその部分が吸収できるようにしていくことも大事ではないかと思えます。概ね令和8年度末を目途にしています。

【奈良委員】

在校生の保護者にも説明してもらいたいですね。

【畠山委員】

地域移行について感じたことですが、よく言われますが、例えば北米やヨーロッパだと、お家に招かれたとして幼い頃からミルクがいいかオレンジジュースがいいか聞かれます。大人もコーヒーがいいのかお茶がいいのか聞かれます。常に小さい頃から選択を迫られるカルチャーで生きていて、日本人は勝手にお茶が出てきたり、その場に合わせるようなカルチャーで生きています。そんな風にカルチャーができていたので、今までは部活動も中学校にあるものの中から選んできましたが、もうそういうものからずいぶん変わってきてしまったのだと思います。自分で選ぶ、自分で感じたことを自分で考えたり、先生の言っていたことを議論したり話し合ったり、そういう指導力がだいぶ前から求められて来たと思います。選択ということは非常に重要なポイントになってくるので、課題はあるでしょうけども地域移行をして、自分はどこに行きたいのか自己選択ができる、自分で選んだことに対してなにか不都合を言っていたら、あなたが選んだよね、と指導の一つの材料として指導できるところが強みとして出てくるかと思えます。地域移行は過渡期なので、色々なご意見があると思いますがとても大事なプロジェクトだと思いました。

日本語指導スタートアッププログラムの方で、外国にルーツを持つと書かれていて、これは外国人に限らずということでもよろしいでしょうか。日本人でも幼少期を外国で過ごして、日本の小学校に入学して不適用を起こす子が結構たくさんいますが、そういう子も対象ということでもよろしいでしょうか。

【学校教育課長】

今現在、来年度入学を予定している外国籍の児童が36名います。そのうち何人が申し込むか分かりませんが、おっしゃる通り、両親が日本人でも直前まで外国にいた子は、習慣も言葉も慣れていない可能性がありますので、検討の一つとして考えていこうと思います。もし全員が申し込んだ場合で36人をどこまで対応できるのか不安もあるところではありますが、そういう子も大事にしたいと考えています。

【渡辺委員】

報告1ですが、ホームページのイメージを拝見しましたが、非常に不安が多い要素である事柄にも関わらず、イラストや画面の明るさで、中に入ってみよう、情報を取りに行きたいなと思わせる画面だったと思いました。質問ですが、このホームページをどういった使われ方をしたいと狙っていますか。

【学校教育課長】

北爪委員からも不安だという声をいただきましたが、今は地域展開という言葉も出ていますが、地域移行をするに当たり、自分の部活動が地域移行したら自分はどうしたらいい

のか、保護者としては自分のこどもをどうしたらいいのかというのを考えた時に、自分の地元にはどういう地域クラブという団体があるのか、どんな活動をしているのか、そういったものの情報が全くない状況になっていると思います。そのため、ホームページを立ち上げて、自分の地域にはどんな地域クラブがあるのか、活動はどこで行っているのか、費用はどのくらい係るのか、時間帯はいつなのか、規約が載っていますので調べることができます。保護者の方もホームページをご覧くださいことで、この団体であればこどもを預けることができるか判断材料にさせていただこうと思います。地域クラブと言っても、スポーツ団体に連絡をしてはいますがそんな簡単に立ち上がるものではないため、保護者が自分たちのこどもたちのためになんとかしようとするのが最短のところかと考えられます。保護者が立ち上げとなった場合で、指導者がいないという悩みを抱えたときに、ホームページを見れば指導者派遣事業と指導者登録というのがあるので、合致する指導者がいた場合、そこをお願いをすればこどもたちに指導してもらうことができます。地域クラブの立ち上げ手順がわからない場合もあると思うので、その手順も掲載しています。ホームページを見ることによって、少しでもこどもたちと保護者の不安が少なくなるようにということを狙って作っています。

【渡辺委員】

そうすると実際に軌道に乗るまでの間、ホームページを通して理解を深めたり、情報を集めたりする場になるのであれば、とても有効な窓口の一つになると思います。その意味では、多様な学びの日のバナーですが、多様な学びの日ページ内は情報が豊富だったのですが、トップページではバナーが下の方にひそやかにあった気がしました。願わくば多様な学びの日もいずれみなさんが活用するというビジョンに向かっていくとすると、ビジョンを想定したホームページの作りも意識していいかと思いました。

もう1点ですが、中学生から聞いた話で、勉強の指導を部活指導中の先生がしてくれたが自分はクラブチームの方に行かなければならず、先生にそろそろ行かないといけない旨を伝えたら、そんなの関係ないと撥ね退けられてしまったことがあったそうです。そう考えると、これからの地域移行のことを単に保護者だけに焦点を当てるのではなくて、先生方もどういう流れでどんな風に自分たちが考え方を持っていけばいいかとかこどもたちと接していけばいいかとか、そういうところも大切になってくるかと思います。先生方の考え方の意識の理解を深める場を設けていただけるといいのではないかと思います。

【教育長】

部活動は課題も多いですが、こどもたちのためだけではなくて、社会のためにもなって、こどもたちが地域に出ていくというのは社会が豊かになるというふうにも捉えることができるので、課題はありますが、県教委とも連携を取り合いながら先生の働き方を考えながら進めていきたいと思っています。引き続きご意見をいただけたらと思います。

【渡辺委員】

報告2で、これまでの人生の経験の中で、自分が移住する国が外国人である自分たちを受け入れる準備をしてくれているというのはすごく心強いと思います。色々な不安がある中、こどもの入学にこんなにプログラムを準備してくれていて、すごくありがたいことだと思います。おそらく入学させようとしている人たちは情報も探していると思うので、先程の説明だと入学説明会において情報が配られるとのことですが、もっと別の場所にも、

例えば海外に住んでいる段階でネットで探せばこの情報にたどり着くくらい表側に出していいのではないかと思いました。そうすれば、移住先ではこういう対応があるというのが分かり、本当に不安を抱えている人たちであるので、日本の寛大さを表現できる場ではないかと思いました。

【学校教育課長】

ホームページまでは手が回っていませんが、就学しようとする場合は10階教育委員会事務局に受付に来ることになっているので、その際に第一弾としてお知らせしようと考えています。やはり言葉が通じないというのはものすごく不安だと思いますのでなんとか支援をしたいと思っています。

【教育長】

新しい試みはどんどん外に発信していきたいと思います。
ほかになれば、以上で質疑を終わります。

【教育長】

日程第四。教育長提出の議案を上程いたします。
議案第1号を議題といたします。説明をお願いします。

【総務課長】

議案第1号 令和7年4月1日付け人事異動方針について

これは、令和7年4月1日付け人事異動方針を決定しようとするものでございます。
議案書の8ページをご覧ください。

まず、1の基本方針ですが、職員の適材適所による異動を行い、人事の停滞を防ぐとともに、職員の士気の高揚と事務事業の円滑な推進を図り、もって人事管理の適正化と公務能率の向上を図ろうとするものです。

次に、2の具体的方針についてですが、職員の採用は、(1)のアに記載の新規採用職員については、令和6年度に実施しました前橋市職員採用試験に合格した者から、イに記載の、いわゆる再任用職員については、前橋市職員の定年等に関する条例の規定により採用された者から採用し、ウに記載の指導主事等(割愛行政職)については、県費負担教職員等からの割愛採用を予定しております。(2)の配置換え(異動)に当たりましては、人事評価や意向調査などを参考に、他部局等との交流も積極的に行いたいと考えております。

なお、配置換えを行う者の基準につきましては、アからエまでに記載のとおりでございます。

以上の点を基本としまして、職員一人一人の持つ能力を最大限に引き出し、教育委員会全体の活性化につながるよう、適正な人員配置に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

【教育長】

ただいま提案説明のありました議案について質疑に入ります。ご意見等ございましたらお願いします。

【教育長】

なければ、以上で質疑を終了します。

それでは、議案第1号について、可決することに異議ありませんか。

(異議なし)

【教育長】

異議のないものと認めます。

よって、議案第1号について可決いたします。

【教育長】

日程第五。その他について報告事項があります。説明をお願いいたします。

【総務課長】

その他1 行事について

教育委員会の2月定例会でございますが、14日金曜日午後2時30分から、総合教育プラザ22北会議室において開催予定です。(ほか、資料の主だった予定を紹介)

教育委員会の3月定例会につきましては、3月13日木曜日午後2時30分から、市役所11階北会議室で開催予定です。(ほか、資料の主だった予定を紹介)

【文化財保護課長】

その他2 令和6年度前橋・高崎連携事業文化財展の開催について

資料の11ページをご覧ください。

まず1の内容ですが、本文化財展は、前橋市と高崎市の連携文化財活用事業として平成19年度から開催しており、今年度で18回目となります。

今回は、展示タイトルを逸品 よく見りゃスゴい!として、両市で収蔵している出土品の中で、展示の機会は少ないが、優れたもの・珍しいものを逸品として紹介します。

会場、開催日時、入場料については、資料に記載のとおりとなりますが、前橋会場は、前橋市総社歴史資料館 学習室で1月25日土曜日から2月9日日曜日まで月曜日を除き開催を予定しております。

5の開催チラシは、12、13ページのとおりです。

説明は、以上でございます。

【前橋高等学校事務長】

その他3 前橋市高校生模擬議会の実施結果について

資料14ページをご覧ください。

今年度の高校生模擬議会は、1趣旨に基づいて行われ、2開催日程・場所は記載のとおり令和6年12月19日(木)、前橋市議会議場において、3回に分けて実施いたしました。

3出席者については、市長、副市長、議長、教育長ほか記載の方々にご出席いただきました。

4質問形式については、前橋市議会代表質問の形式で行い、生徒作成のスライド資料を、議場のモニターにタブレット端末を用いて投影しながら、1回につき2クラスで6人ずつ、

合計で18人の生徒が質問を行いました。

5進行については、15ページに記載のとおりです。

今回の質疑応答は、生徒の質問に対して各部局長が答弁したあとに、生徒が意見や感想などを返答するという形で進みました。

また、各回終了時に、市長、議長、教育長より、挨拶や講評をいただきました。

生徒たちはクラスごとにテーマを定め、1組は医療・福祉、2組は地域経済、以下教育・福祉、ICT・デジタル、環境・建設水道、農業・産業経済分野についての質問を作成いたしました。

答弁いただいた部局長の皆さんには、生徒の質問に対して真摯に受け止めていただき、具体的な事例等を交えながら課題等についてもアドバイスをいただき、大変丁寧で分かりやすい答弁をいただくことができました。

高校生模擬議会は今回で6回目の開催となりましたが、多くの方のご協力により、生徒たちのこれまでの探究学習の成果を示すことができたものと考えております。

前橋市高校生模擬議会の実施結果の説明は以上でございます。

【生涯学習課長】

その他4 令和6年度前橋市社会教育活動功労者への感謝状の贈呈について

資料の16ページをご覧ください。

本市教育委員会では、社会教育活動において功労のある個人及び団体に対して、毎年度、感謝状を贈呈しております。

関係課及び関係団体から推薦された各候補者について、社会教育活動功労者感謝状贈呈基準に基づき、選考を行った結果、今年度の社会教育活動功労者は資料のとおり、個人25人・団体1団体に決定いたしました。

感謝状贈呈式は、2月5日（水）午後2時から中央公民館において執り行います。

以上ご報告いたします。

【生涯学習課長】

その他5 令和6年度第3回前橋市社会教育委員会議の開催結果について

資料の17ページをご覧ください。

開催日時、場所、出席者及び議題については記載のとおりです。

結果概要ですが、議題の1では、提言の提出に向けて、人生100年時代の学びについて事務局から説明を行った後、グループワークを行い、委員のみなさまから人生を通じた多様な学び等について、多岐にわたるご意見をいただきました。

議題の2では、令和7年度の社会教育関係団体に対する補助金について事務局から説明を行い、その後、委員に意見聴取を行い、異議なしとされました。

この意見聴取につきましては、社会教育法第13条の規定に基づき、社会教育委員会議において意見をお聴きするものとなっております。

議題1での委員さんからの主な意見をご紹介します。

人生100年時代の学びというが、これまで80歳であった寿命が100歳まで単純に20年伸びるという話ではなく、ライフステージが構造的に変化し、高齢になっても活躍し続ける人が増えていくという視点から施策について議論を進めたい。

大学生が地域の活動を知ることが少ない。これは高齢者も関係するが、ボランティアなどの活動に、最初は無理にでも参加させてもいいのではないか。活動を体験することで気

づきが生まれ、さらにやってみたいという大学生や高齢者も現れるのではないか。

今の社会は攻撃的に感じる。寛容性が高まるような社会を創っていくためにも、非認知能力を高める講座を学校教育の中で行い、難しければ社会教育の中で行ってほしい。アメリカではこの非認知能力の重要性が文献などからもたくさん出てきている。

企業と共催で事業を実施することで、ノウハウであったり、定年後の話であったり、様々な情報を提供することができる。金銭的な負担などもあるが、多様な学びを充実させるためには必要ではないか。

などのご意見をいただきました。説明は以上です。

【生涯学習課長】

その他6 第59回（令和6年度）前橋市民展の開催について

資料18ページをご覧ください。

前橋市民展は芸術創作活動の成果を公募し、展示することで、広く市民の鑑賞に供し、本市の芸術文化の一層の振興とその水準の向上に資することを趣旨として、毎年度開催しております。

まず、1の開催日時についてですが、美術部門が2月28日（金）から3月2日（日）までの3日間、書道部門が3月7日（金）から9日（日）までの3日間です。

2の会場ですが、両部門とも昌賢学園まえばしホールの大小展示ホールとなります。

3の入場料につきましては、無料です。

4の内容ですが、美術部門は平面と立体の2部で構成し、書道部門は漢字、かな、新傾向の3部で構成しております。

両部門とも一般公募作品と前橋市民展覧会委員会の委員等の作品を展示いたします。

詳細は添付のパンフレットをご覧ください。

以上ご報告いたします。

【生涯学習課長】

その他7 令和6年度優良公民館表彰の受賞について

資料20ページをご覧ください。

公民館等の社会教育活動を行う施設のうち、特に事業内容・方法等に工夫をこらし、地域住民の学習活動に大きく貢献している施設を優良公民館として、文部科学大臣及び群馬県教育委員会が表彰しております。令和6年度において、2つの公民館が受賞に至りましたのでご報告いたします。

まず、1の令和6年度優良公民館 文部科学大臣表彰ですが、受賞館は元総社公民館です。テーマは、こどもを核とした交流による地域づくりとし、こどもの体験活動というアプローチからこども電気教室、また夏休み期間中のしゅくだい講座の開催など、こどもたちを中心とした地域交流や世代間交流にポイントを置いた取組が評価に繋がったと考えております。事業内容については資料21・22ページのとおりです。

表彰式の予定日時、場所は資料に記載のとおりです。

次に、2の令和6年度優良公民館 群馬県教育委員会表彰は、上川淵公民館が受賞いたしました。特色ある事業は少年教室で、主な取り組みとしては、ウクライナ料理教室や、薬剤師さんの仕事を学ぼうなどが挙げられます。地域の人材や資源を活かした海外の食文化や職業の体験など、体験を通してこどもたちの新鮮な気づきを生む機会に繋がったことが、評価されたと考えております。資料23ページが事例ですので、後ほどご確認ください。

表彰式は11月27日に中央公民館ホールにて執り行われました。

参考として、直近の過去の受賞歴を資料に記載しております。

以上ご報告いたします。

【生涯学習課長】

その他8 第3回前橋市はたちのつどいの開催結果について

本日配付いたしました資料をご覧ください。

1及び2の開催日時と会場は記載のとおりです。当日は教育委員の皆さまにご出席をいただき、大変ありがとうございました。

今年度も昨年度に引き続き、1部制による開催といたしました。

3の参加者数は2,381人で、該当者数3,251人に対する参加率は73.2%でした。参加者の推移の表の右端にある前年比の欄の2段目をご覧ください。令和5年度と比較しますと、参加者数は82人の減で、参加率は5.7%増となっております。

4のプログラムについてですが、資料に記載のとおり、3部構成で実施いたしました。

第1部のはたちのまなびでは、二十歳の代表で組織する企画運営委員の若者が作成した税や年金、本市の行政サービスやめぶくPayに関する映像を上映しました。

第2部の式典では、主催者挨拶、来賓祝辞のほか、はたちのメッセージにおいて、粕川中学校出身の大学生で、箱根駅伝に出場するという夢に向かって日々努力している諸星風弥さんにお話しいただきました。

第3部のはたちのあそびでは、景品抽選会を開催しました。本市ホームページでの募集掲載や昨年度協賛いただいた企業への周知、そして企画運営委員が自ら企業を訪問し、ご相談させていただいた結果、多くの企業から賛同をいただき、たくさんの景品をご提供いただきました。

5のその他ですが、式典終了後に隣接する楽歩堂前橋公園において、協力企業によるフォトスポットを設置いただき、若者やご家族での撮影を盛り上げるお手伝いをいただくなど、二十歳の門出を盛り上げるイベントとなりました。

今回のはたちのつどいにつきましては、企画運営委員が積極的に企画や運営を行いました。また、協力企業や来年度企画運営委員となるボランティアの若者など、多くの方々のご支援、ご協力により、盛大に開催することができました。大変ありがとうございました。

説明は以上です。

【教育長】

総務課からの行事予定で、次回の定例会についてですが、2月14日（金）午後2時30分ですよろしいでしょうか。

（異議なし）

【教育長】

では、2月定例会については2月14日（金）午後2時30分からと決定いたします。

また、3月定例会については3月13日（木）午後2時30分から予定することで、よろしいでしょうか。

（異議なし）

【教育長】

では、3月定例会については、3月13日（木）午後2時30分からで、お願いいたします。

ほかに、ただ今の報告について質疑等ありますか。

【奈良委員】

行事予定ですが、図書館に多くの人に来ていただきたいという思いを感じる企画だといつも感じています。2月2日の前橋育英高等学校吹奏楽部演奏会、3月9日の市立前橋高等学校吹奏楽部演奏会、とてもいい企画だと思いますが、実施にあたりどのような経緯があったのでしょうか。

【図書館長】

前橋市立図書館の高等学校連携事業というのがあります。市内の高校と高等部と連携して、高校生の図書館の利用をつなげて、特に文化部、委員会等の発表の場として図書館を利用していただくこのような連携事業をしています。図書館としてはこのような発表会があった際は、関係する図書を並べて、例えばコンサートであれば吹奏楽に関する本などを並べ、一般の方にも広く借りていただけるようにしています。図書館に来ていただくことを目的としながら、本も貸し出すということで、高校生と連携しています。令和5年度に市内の高校へアンケートを取らせていただき、興味を示してくださった高校にアプローチをして、今回初めて前橋育英高校の吹奏楽部と連携できることとなりました。今までは前橋女子高校、市立前橋高校、勢多農林高校と実施をしてきました。過去は1年に1校で実施してきましたが、令和6年度からは色々な学校と連携できたらいいよねということで、アンケート結果に基づきアプローチしたところ、今回のコンサートに結びつきました。3月に市立前橋高校の吹奏楽があるため、育英高校には朝の実施はどうかと働きかけたところ、学校内で協議いただいた結果ご承諾いただき、今回初めて図書館の開館時間前に開催する運びになりました。

【奈良委員】

高校教諭をやっていた私の肌感覚ですが、前橋市立図書館がどこにあるのか知っている高校生が少ないような印象です。これから図書館を利用してもらいたいし、高校生の発表の場もありがたいしで、両方にとっていいことだと思います。大変かと思いますがぜひ色々な企画をして、図書館にたくさんの方が来てもらえるように頑張りたいと思います。市内の高校と交流できていくといいなと感じました。

社会教育委員会議で大学生のボランティアをもっと、というご意見がありました。これは私からもぜひ進めてもらいたいと思いました。先日市長と雑談する機会があったのですが、大学生はもっとボランティアをやりたがってますよとお伝えしました。大学生にとってもいい勉強になるし、社会を知るいい勉強になっていく機会もあるので機会を見つけてぜひ進めてもらいたいと思います。大学が加盟している協会があればそこに伝えれば、1校1校声をかけなくても話が通じて可能性が出てくると思うので、大学生を活用したまちづくりもいいと思いました。

【生涯学習課長】

はたちのつどいの企画運営委員のメンバーと市長でタウンミーティングをしました。そういった中で大学生が考えていることや前橋市への思いが意見として出ました。意見を広く拾いながら、各大学の方でもボランティア活動を推進されているので、こちらからも働きかけを積極的に行っていきたいと思います。

【渡辺委員】

高校生模擬議会の質問項目が素晴らしいと思いますが、どうやって浮き上がってくるのか、これが質問になるまで学校内でどのようなことがあるのでしょうか。

【前橋高校校長】

模擬議会ですが、本校の探究学習地域活性化プロジェクトめぶくに基づいて行われる最後のステージです。模擬議会で発表するのは2年生ですが、まず1年生のときにまちなかりサーチを行います。1年生のときに前橋の街なかに出て行って、お店、企業、市役所の方などに話を伺い、前橋を活性化させるためには何が必要かを探求する活動をしています。それをもとに2年生になってから各々が出し合った課題をクラスの中で精査して、質問にする3つを選ぶ流れです。ただ、高校生ですので、イベントや有名な食べ物作りなどに発表の内容が偏りがちです。そういったところは市議会議員の皆さんにご協力を得まして、市議会議員の皆さんに学校に来ていただいて、色々な提案の仕方やアプローチなどを教えていただいています。今回面白かったのが、競輪で街をもう一度活性化させようという発案が出てきました。ギャンブルで人を集めようというのが本筋ではなくて、せっかくグリーンドームという素晴らしい施設があって、その中で競輪が行われているので、それに対して例えばキッチンカーを出して家族で足を運べるようにするなど、そういったことをしたら人が集まるようになるのではないかと、そういったことを議員からアドバイスをいただき、煮詰めていって最後発表に繋がっているものです。生徒一人ひとり、自分がやりたい探究活動を行うのが他校のスタイルに多いですが、市立前橋としては1年生から個人探求をする、まちなかりサーチをする、そして最終的に模擬議会ですが本物の提案ができるように目指して頑張っています。これによって生徒が本当に探究活動や前橋市の未来を考え、やがて帰ってきて前橋市を活性化させたいと考えている生徒がたくさんいます。そういった子どもたちをしっかりと育てていくために、来年度もしっかり取り組んでいきたいと思えます。ご協力よろしくお願いたします。

【渡辺委員】

お話を伺うと、市立前橋の特色と言ってもいいと思えました。単年度だけではなく学んでいるというのは素晴らしいと思います。ぜひ続けていただきたいと思えます。議会の方の協力も本当に素晴らしいと思えます。生徒のみなさんが経験を通して大きな学びを得ている素晴らしい機会になっていると感じました。

【畠山委員】

模擬議会の取組は毎年素晴らしいと思えながらお聞きしています。先ほど校長先生がおっしゃった通り、個別で探究学習をするところが多いと思えますが、それはそれで大事なことだとは思いますが、やっぱり学校教育で大事だと思うことは協働していく、自分でも考えていくんだけれども、みんなと協力しながら考えていくというのがすごく大切なことかと思うので、こういう場があるというのはすごく大事なことだと思えました。

質問の中で、2年3組で、利用しやすいこども食堂の設置についてとありますが、こども食堂が高校生にとって利用しにくそうに思えたから質問となったのでしょうか。

【前橋高校校長】

こども食堂の利用については、こども食堂という言葉自体はかなり全国的には知られている言葉ですが、実際、アンケートを全校の生徒に取ったところ、こども食堂という名前は知っているが実際に何をしているのか、どういう食堂なのかという事が意外と知られていないことが分かりました。生徒がここに目を付けまして、もう少し知ってもらって、こども食堂というのはこのようなことをやっているが、もう少しこのようにしたらよくなるというような提案をしたいという事で、こういった議題を設定したところでは。

これに限らず、他の議題についても言葉は知っているが意外と中身を知らないというのが市立前橋の生徒達には多く、普段の学校生活の中から、聞いたことはあるけど知りません、というような発想から議題は生まれてきたのだと思います。数名の生徒がボランティアでこども食堂に行っているという実態があります。そういった生徒の話を知ると、素晴らしいところなので市立前橋の他の友達にも知ってもらい、やってもらいたいという希望も昨年あったので、市に提案した内容についてはこども達の感覚としては、もっとこども食堂というのを認知をして、素晴らしさを伝えて、私達高校生に何が出来るかということ伝えて、そのような提案があったと思います。

【畠山委員】

市立前橋だけではなく、高校生全般的にあまり知らない子が多いのではないかと思います。そういう取組を全校にアンケートを取って、それだけでもずいぶん、それは何だろうと考える機会になるのですごく良い取組だと思いました。様々な社会の課題や問題について全校で考えたり、真剣に考えたりする機会になるのは本当に大切なことだと感じました。

【教育長】

色々なご意見をいただきました。本当にありがとうございます。

ここに書いてあるだけではなく、学務管理課の行事で、週末に国際理解教育について前橋国際大学の学生に国際理解教育会の最終回をやっていただいたところ本当に仲間同士学び合っている姿や年齢の近い大学生が非常に心理的安全性の高い状況を作ってくれて、多文化共生とは何かということを中学生がここまで考えられるのかという素晴らしい授業をしていました。社会の中でも種まきを市民と方と一緒に前橋市教育委員会ができたら良いと思っています。はたちのつどいでもお世話になりました。素晴らしい式典でした。ありがとうございました。

【教育長】

ほかになれば、以上で質疑を終わります。

【教育長】

以上をもちまして教育委員会1月定例会を閉会いたします。

(午後3時11分)